

## 1 持続可能な社会づくり教育とは

自然環境や地域・地球規模等の諸課題について、児童・生徒一人一人が自らの課題と考え実践できる力を育成するため、見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びを通して思考・判断・表現しながら課題解決を図る取り組みを推進する。

## 2 本校の取り組む「持続可能な社会づくり教育」とは

これまで本校は、児童の体験的な活動に消極的であった。児童一人一人には、学校や社会の役に立てるようになりたいという思いがあっても、それを実践できる場がなく、他者に認められる機会も少なかった。そこで、平成28年度から「縦割り班活動」に取り組み始めた。校舎の大規模改修によるプレハブ校舎での学校生活という不自由な環境であっても、生き生きと活動する児童の姿が見られた。

学校の周りには、保育園や福祉作業所、公園が隣接している。また、学校の敷地は広く、多くの樹木も植えられている。まずはこれらを体験学習の場として、交流させていただくことや活用することを考えた。また、可能であれば、学校ビオトープもつくりたいと考えていた。それは、教室での学習には苦戦していた児童が、虫やカエルに親しむ姿をたくさん見ていたからである。

今年度、「持続可能な社会づくり教育」推進校として2年間、都の指定を受けた。「ひと」と「いきもの」と触れ合う体験の場を開発し、そこでの体験活動を充実させる。この活動を通して、「ひと」や「いきもの」の命の大切さを体感させ、それらを愛しみ、大切に守ろうとする態度と実践力を身につけさせていく。